



特定非営利活動法人日本防災士会 富山県支部

富山県防災士会会報

第4号

平成24年10月25日
発行 富山県防災士会
連絡先 090-8967-2617
(事務局：中川)

総合防災訓練に思う

富山県防災士会 会長 小杉邦夫

昨年、富山県防災士会が参加した県市町村の総合防災訓練は富山県、富山市、高岡市、上市町の4ヵ所のみであったが、今年度は倍増の8県市町に及んだ。



その経緯としては、他の市町村への拡大はより防災意識の啓蒙・啓発活動に有効であること、今年から富山県の肝いりで開始される防災士養成の気運が高まっていること、行政との信頼構築と情報交換、未接触行政との連携拡大という観点から県市町村の防災担当課及び関係機関を訪れ、防災士の活動を理解してもらうなど情報交換と連携を深め、防災訓練への参加協力も申し出た。その甲斐あって、今年度は新たに砺波市・南砺市・射水市・立山町から総合防災訓練の協力要請があり、多くの本会会員が啓蒙・啓発活動に参加した。

◆ 「自助・共助って何ですか」

それぞれの会場では近県の災害記録・県内の都市圏活断層図・家具転倒防止解説等のパネル十数枚のディスプレイ、家具転倒防止を施すための方法やグッズを模型で実演、災害ビデオの放映、非常食の試食、いざというときに役立つ新聞紙でスリッパを作る指導、簡易トイレの作り方等々各防災士の工夫や技量を生かし一般市民に熱弁をふるっている。そして本会のブースに立てられた“のぼり旗”も威力を発揮している。

毎回この会場でも活断層図にはかなり高い関心がある中で「富山県に断層ってあるんですか」「富山県にある断層って呉羽山断層だけかと思った」や「自助共助って何ですか」と聞いてこられる方には丁寧に説明している。やはり、我々のこうした啓蒙・啓発活動は如何に大事かと言うことを認識させられる場面である。

◆ 初めて小学生の参加

ほとんどの総合防災訓練は学校施設を会場にして行われることが多いが、参加する児童・生徒の姿がほんの数えるほどである。こうした中で、10月14日に射水市下村で行われた射水市総合防災訓練には保育園児・児童・教職員が参加し、津波情報をもとに屋上へ整然と避難した。その後、心肺蘇生法を学び、各展示ブースをクラス毎に回って説明を聞き、放水体験や救助訓練を見学した。県内では学校単位で児童が総合防災訓練に参加したのは初めてと思うがとても大切なことと感じた。今、学校防災マニュアルの見直しがかかっている最中、できるだけ早い時期に県内各地区の学校・企業も参加し、まさに地域が一体になった総合防災訓練の実施が望まれる。

県・市町の防災訓練に参加

展示の他、草島会場では防災講話も

7月から10月にかけて県内各市町での総合防災訓練が実施された。当会は下表の6件10会場に参加した。
※印は今年度、新規に参加した市町を示す。

主催者	月日(曜)	場 所	参加内容
砺波市 ※	7月29日 (日)	砺波北部小学校	・防災士の活動 ・パネル展示等
高岡市	8月26日 (日)	石堤公民館 南条小学校 木津小学校 博労小学校	・パネル展示等 ・DIG (災害図上訓練)
立山町 ※	9月1日 (土)	上東体育館	・パネル展示等 ・手作り防災品の展示と作成実演
南砺市 ※	9月2日 (日)	井波小学校	・パネル展示等
富山県 富山市 合同	9月30日 (日)	草島小学校 大山社会体育館	・津波避難に関する講話 ・DIG ・パネル展示等
射水市 ※	10月14日 (日)	下村小学校	・パネル展示等



富山市草島会場での講話



富山市大山会場での非常食試食

この他、11月18日(日)に開催される上市町総合防災訓練(会場、陽南小学校)にも参加を予定。

下半期の主な行事予定

詳細は決まり次第ご案内します。

行 事	予定日	内 容	場 所
外部講師による研修会 終了後忘年会	12月1日(土) 15:30~	気象に関する講話	ウイング・ウイング 高岡
会員相互研修会	平成25年 2月9日(土)	未定	四季防災館
日本防災士会 北陸地区連絡会	2月9日(土)	未定	四季防災館
平成25年度 通常総会	3月23日(土) 15:00~	平成24年度の報告と 次年度計画	富山CiC ビル

『実践的防災教育支援事業』 学校防災アドバイザーとして

県が防災士13名に委嘱状

今年度、富山県では実践的防災教育支援事業を実施するにあたり、7月下旬にモデル校19校を指定した。9月4日にはモデル校に対して説明会を実施し、同日付けで県教育委員会より本防災士会に所属する防災士と自主防災アドバイザー計13名に「学校防災アドバイザー」の委嘱状が交付された。

モデル校は朝日町・入善町各1校、黒部市・魚津市・滑川市・富山市・射水市3校、高岡市・氷見市各1校となっている。

学校防災アドバイザーの役割は、学校防災マニュアルの見直し時や避難訓練時の指導・助言となっているが、初めてのことであり、活動の指針となるものが必要とされる。10月16日に大西宏治富大准教授（本会・参与）の指導を受けながら情報交換や意見交換を行った。

得られた指針のうち3点は次の通り。

- 学校側が作ったマニュアルは基本的に尊重する。マニュアルを細部に渡って一度に見直すのは無理があるので、5年計画位で整備していくように提案する。1年毎に違った観点で目標を立てるのも良い。
- 津波が予想されるとき、グラウンドで点呼後に屋上に避難するのは現実的ではない。火災や校舎の損傷がなく、屋上に安全柵がある場合には、直接屋上へ避難することを提案する。
- 避難訓練では、できるだけ良かった点を褒める。

出前講座の事例紹介

沿岸地域で防災意識が高揚

昨年末に発足した、富山湾に近い富山市古志町二丁目自主防災会は、10月20日（土）に古志町中央公民館で、初めての防災講座と避難訓練を開催した。

村崎防災士による防災講座では、ビデオ上映のほか、手づくりの装置や自身の実家の耐震診断の結果の紹介などで、参加者は防災対策を身近に実感。約1時間の講義に熱心に聴いた。その後、参加者は津波避難所となる富山市浜黒崎浄化センター3階まで、避難訓練を実施した。

自主防災会長の大谷登氏は、「今回の講座では地震災害とそれに伴う火災に備えることに的を絞って話してもらったが、津波への関心も高い。今後は、富山市が現在作成中の津波ハザードマップを基に、その対応についてもさらに検討していきたい」と語った。



富山県防災士会の会員数（10月4日現在）

正会員：52人 準会員：3人

合計：55人（3月末より+10人）

四季防災館防災講座 防災士会が7講座を担当

4月にオープンした富山県広域消防防災センター・四季防災館が企画する事業のうち7つの防災教育・講座において、本防災士会の防災士が講師を務めた。

- ① 高齢者防災教育(1)：5月23日（水）小杉防災士
高齢者が自分を守るための防災教育
- ② 女性のための防災講座：5月27日（日）荻生防災士
女性ならではの防災への視点がある。そうした視点を防災・減災に生かすには・・・
- ③ ふるさと災害講座：6月24日（日）小杉防災士
本県の季節ごとの起こりやすい災害やその歴史を学び、理解を深め、県民の防災意識の高揚を図る。
- ④ 高齢者防災教育(2)：7月15日（日）村崎防災士
高齢者が自分を守るための防災教育
- ⑤ 県民防災講座（自助・共助基礎講座）：7月22日（日）吉澤防災士
災害対策や防災に関する講義に加え、体験や情報伝達訓練を実際に体験して防災知識を習得する。
- ⑥ 小学生と母親の防災教育：7月29日（日）荻生防災士
自分で自分の命を守るにはどうすればよいかを親子で考える。
- ⑦ 県内災害の教訓を学ぶツアー（安政の大地震と立山砂防を知るツアー）：8月19日（日）小杉防災士
小中学生親子（20組）が県内の災害発生現場等をバスで巡り、防災対策や災害に関する理解を深める。

第2回出前講座勉強会を開催

8月4日（土）、富山県広域消防防災センターにおいて、3名の講師による会員向けの勉強会を開催した。短時間であったが、スキルアップに役立つ勉強会であった。

- ① 「魚津断層帯、特に不動堂断層について」
小杉防災士による講義

- ② 「家屋の耐震化模型の作成について」



村崎防災士による説明と希望者への完成品提供



- ③ 「三角巾による応急処置と固定法」

関防災士・日赤指導員による応急手当の訓練
この種の訓練は、今後も繰り返し実施する予定。



編集後記 暑かった夏をようやく乗り切り、実りの秋到来ですが、すでに立山の初冠雪と紅葉のたよりもありました。次号からは会員の活動報告なども紹介していく予定です。皆さまからの投稿をお待ちしています。

